

県産木材を活用した 不燃化粧板の開発



木材の新たな
可能性を考える

土地柄課題
震災がきっかけで
関東圏から県内へ

株式会社徳正合板は、昭和47年の創業以来、主に婚礼堂家具や仏壇に使用される面材や化粧板を製造販売し、北関東までシェアを伸ばしていました。「住宅様式の変化とともに婚礼堂家具の需要が低くなると、ハウスメーカーに依頼される住宅用ドアやキッチン扉、店舗の面材を扱っている建材メーカーの下請け仕事などをしていました」と話すのは、三代目代表取締役の徳正賢一さん。関東圏への出荷が9割だったという当時の製品は、木目印刷紙に特殊な塗装を施した化粧合板。それは、天然木と比べても遜色ない仕上がりで、大手企業のモデルチェンジに合わせて企画を提案し、要望に合わせた製造をおこなうOEM商品が評価され、数々の企業から採用されました。こうした中で(株)徳正合板はその技術やコストパフォーマンスを鍛えていきます。そんな中、平成23年に東日本大震災が発生。あ



株式会社徳正合板
代表取締役 徳正賢一さん

る時、設計事務所から「地元の建設業者に直接納入できる製品はないか」という相談を受けます。今まで県外への出荷がほとんどだった徳正さんは、震災後のタイミングにいただいたこの声をきっかけに、県内への製造を考えるように。平成24年に山形県建築士事務所協会に賛助会員として入会し、「樞抗菌塗装パネル」を開発します。従来の工法では均一な塗装が難しく、工期が長くなってしまいうという課題をクリアしたこのパネルは自社工場での塗装をし、現場では張るだけになっています。しかも高品質という優れたものでした。県内の新築小中学校の内装壁面に採用され、平成26年までに8校に導入。施工レベルとコストの良さは口コミで広まり、5年間で県内外の文教施設で10万平米の施工を行いました。

今後の課題・展望
様々な視点から
新製品の可能性

山形駅に隣接する商業施設のリニューアルに伴い、入り口の壁面に使用されたのが、金山杉を使用したMOENE Oです。駅の改札近く、県内外を行き来する人々の顔となる場所に導入されています。「四面が無節の美しい木材は希少性が高いためどうしても高額になってしまいましたが、広い面積に使用可能なMOENE Oは、木目の美しさをたくさんの人に広く知っていただくことができます」と徳正さん。木目を最大限に活かしながら内装制限のある施設にふんだんに使用できることで、設計する方も表現の幅が広がるのではと語ります。現在では、西村山地域にある西山杉を扱う有限会社山六製材さんとの連携も行い、原木産地の幅も広がっているとのこと。これからは、地道に認知度を上げながら関東圏

での繋がりも利用し、県内外へ向けてさらに広めていきたいと展望を語ってくれました。

事業の今・これから

令和元年
12月現在

その材質の特徴から、「燃えにくい」という意の方言である「燃えね」と、ギリシア語で「新しい」の意「NEO(ネオ)」として(株)徳正合板が従来から展開していた製品「ネオラ」。この3つを掛け合わせて名付けられたという不燃・抗菌化粧板「MOENE O」は、現在18カ所の庁舎や福祉・保育施設等に施工またはスペックされており、県外では、その地域の木材を使用した施工も行われたとのこと。

また、令和2年3月に開館予定の山形県総合文化芸術館において、西山杉を使用したものがロビー天井に、金山杉を使用したものは大ホールのステージ・花道・バルコニー・手すり・オーケストラピットの壁面や音響ひさしに施工されたとのこと。多くの方が目にする場所です。続々と採択されるMOENE Oを通して、県産木材への潜在的な関心や需要が、実際に施工を可能にした実績に繋がっていることを感じます。

連携の経緯
地元貢献したいという思いから

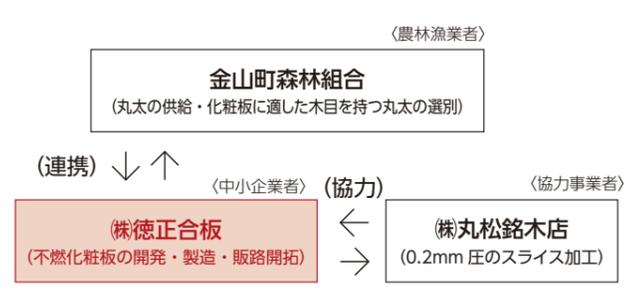
新パネルの開発がきっかけで地元での繋がりができた頃、「不燃材料」に関する問い合わせが多数寄せられたといいます。そこで、地元の要望に応えたいと、徳正さんは「不燃化粧板」の開発を決定します。

老人ホームや文化施設、病院やホテル、商業施設など、不特定多数の人が集まる場所には内装制限があり、火災発生の際に燃上や有毒ガスの発生を防ぐため、天井や壁に使用する材料には、国土交通大臣が定めた不燃性を持つ材料または、認定を受けた材料を使用しなければなりません。開発にあたって、県産材を使用したいと考えていた徳正さんは、金山町森林組合と出会います。

工夫成果
たくさんの協力を得て
不燃化粧板の開発

農業支援センターや工業技術センターの後押しもあり、県産木材を活用した不燃・抗菌化粧板の開発に着手。いくつかあった技術的な問題は、塗料メーカーの技術者にも協力を仰ぎ、工業技術センターに評価してもらいなどを繰り返しました。現代では、建築材として木材をたくさん使い、山のサイクルを活性化させるという流れがあるのですが、開発する不燃・抗菌化粧板では、杉を薄くスライスし、実際の商品に扱う部分は0.2mmの厚さしかないため、違う視点で木材がPRできるとのこと。木材を薄く削り出す工程は、秋田県能代市の株式会社丸松銘木店さんに協力いただきました。その後、耐火試験やガス有毒性試験など厳しい試験をクリアし、平成28年9月に国土交通大臣の認定を受け、県内初の県産材を使用した「MOENE O」という商品が誕生しました。

事業実施体制 (事業期間 H27.10~H29.9)



MOENE Oの製品バリエーション (左)
薄く削りだされた杉材のサンプル (右)



会社概要
株式会社 徳正合板
住所 / 〒990-2251 山形市立谷川2丁目895-7
電話 / 023-686-5550
ホームページ / http://www2.jan.ne.jp/~tokumasa/ptoku_100.html (徳正合板)
http://www2.jan.ne.jp/~tokumasa/ptoku_580.html (MOENE Oの紹介)